

事務連絡  
令和6年3月27日

都道府県下水道担当課長 殿  
政令指定都市下水道担当部長 殿  
（上記、各地方整備局等経由）  
市町村下水道担当部長・課長 殿  
（上記、各都道府県経由）  
日本下水道事業団事業調整課長 殿  
都市再生機構下水道担当課長 殿

国土交通省水管理・国土保全局下水道部  
下水道事業課事業マネジメント推進室課長補佐

## 下水道工事における安全対策の徹底（その5の2）について （令和6年2月26日千葉県市川市発注工事に伴う死亡事故）

本年2月26日、千葉県市川市発注の開削工法による下水道管の新設工事において、バックホウで掘削作業を行った後、深さ約2.1mの掘削穴の中で、土留め矢板を設置するために作業員が手作業で掘削していたところ、側面の土砂が崩落し、作業員が崩落した土砂に埋まり、救急搬送されましたが、死亡するという事故が発生しました。

事故原因等を確認した結果、以下の点について安全対策の不備がありました。

- ・掘削深1.5mを超える深さであったにもかかわらず、土留め設置前に掘削断面内へ立ち入り、作業を実施したこと。
- ・作業員を単独で作業させてしまったことにより、掘削時に地山の異変、予兆を確認することができなかったこと。

事故原因等を受けまして、別紙のと通りの再発防止策を行うこととされました。

同様の安全対策の不備による死亡事故が複数発生しており、各下水道管理者におかれましては、改めて工事現場へのパトロールを通じ、施工計画書等に基づく作業手順とおりの施工や安全管理の徹底を確認するとともに、当該再発防止策も参考として安全管理に対する指導を再度徹底することで受注者の安全意識の醸成を図り、事故の未然防止に努めていただくようお願いします。

## 【事故発生状況】

開削工法による下水道管の新設工事において、バックホウで掘削作業（幅1.0m、延長4.0m、掘削深約2.1m程度）を行った後、土留め矢板を設置するために、作業員がスコップにより手作業で掘削をしていたところ、側面の土砂が崩落し、作業員が全身生き埋めとなった。

通報を受けた救急隊により救助され、救急搬送されたが、死亡が確認された。

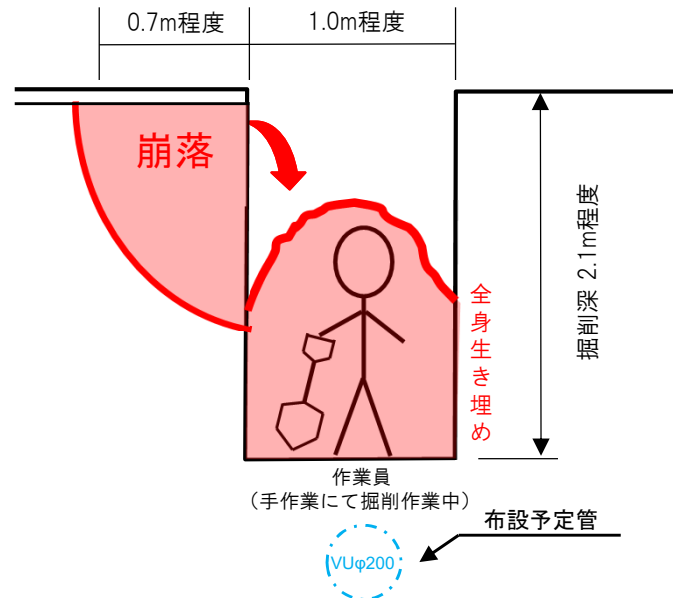
## 【事故発生原因】

- ・掘削深1.5mを超える深さであったにもかかわらず、土留め設置前に掘削断面内へ立ち入り、作業を実施したこと。
- ・作業員を単独で作業させてしまったことにより、掘削時に地山の異変、予兆を確認することができなかったこと。

## 【平面図】



## 【状況図】



## 【状況写真】



側面の地山が崩落し、作業員が埋められた。

## 【再発防止策】

- ・1.5mを超える深さの掘削作業を行う時は、必ず先行して土留めを設置したのちに掘削作業を行う。
- ・土留めの設置前に作業員が立ち入らないよう徹底する。
- ・掘削作業を行う際は、地山の掘削作業主任者が、地山の状況や湧水の有無を注意深く監視する。
- ・地山の掘削作業主任者等が、地山が弱いと判断した場合は、掘削深さにかかわらず、直ちに仮止めなどの事前対策を行う。